

ほげい船 令和元年 7 月

良質の医師を確保するには

高知県は統計によると医師数が全国でも多いとされていますが、高知病院においては医師不足が顕著でその確保に苦勞しているのが実情です。また、医師の高齢化も進んでおり、近い将来今以上に厳しい状況になることが想定されています。令和にはいり、複数の医師が突然、病院を去ることとなりました。従来から高知病院では徳島大学、高知大学から医師の派遣を受けていますが、一般的に人事は 4 月に行われますので、年度途中からの派遣は難しいのが現状です。また、加えて大学の診療科における医師不足も深刻で外の病院に派遣する余力が以前に比べて極端に低下してきており、その一因は初期臨床研修制度の導入によるといわれています。つまり、従来型の卒業後直接入局という流れが変更され、初期研修終了後に専門を決めるようになり働く病院や大学を自らが選択することが可能になりました。また、専門医制度も多くの問題を抱えながらも開始されています。これらのことにより地方の大学医局への入局者が以前に比較し著明に減少し、その結果、当然病院への医師派遣も難しくなっています。地域の医師の確保のため高知県、徳島県においても地域枠を設け地域に残る医師を増やすように努力していますが期待通りには行かないようです。一方、当院にとっての問題は高知大学の地域枠の医師は義務年限が終わるまで地域での勤務が義務つけられておりますし、徳島大学の地域枠の医師は県外にはくることができませんので後期研修医が高知病院で勤務できる可能性は低くなっています。ここ数年は辛抱しなければならない時期と思っています。どうして若い医師は都会に集まるのでしょうか？まず、地方大学には都会からきている学生が多いようですので、卒業後地元に戻るという図式になります。以前は大学の卒業生はほとんど、卒業大学に残って博士号をとるのが一般的でしたが、今は博士号には興味を示さない人が多く専門医取得の方の希望が強いようです。その意味から都市部の病院へ集中しているのではないかと思います。政府もこの医師の偏在化に対処するため都市集中の解消に取り組んでいますが、簡単に解決できる問題ではないように思います。

高知病院の基本理念は「こころのこもった医療を行い地域に信頼される病院になる」ことで、このためには地域の皆さんに選んでもらえる病院でなければなりませんし、医師確保の点からは患者さんに選ばれる病院であることと同じように医師にも選ばれる病院であることが重要です。医師の派遣を大学に依頼に行った時にはいつも病院の業績が話題になります。昔は医局から関連病院への出張を言われたときには不満があっても方針に従ってくれましたが、現在は事情が異なり行きたくない病院なら簡単に断るそうです。つまり、医師が働きたいと思う病院にならねばなりません。どのような病院を若い先生が望むのかは、はっきりしませんが働きやすい環境で多くの症例や実績があり臨床力がつく病院であることは必要不可欠なことと思います。このような病院を作ることが良質の医師確保の近道であり、また、他の職種の確保にも繋がっていくことと思います。